



# 家庭科教員免許取得志望大学生の 学びとジェンダー観

大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科  
人間社会学専攻 博士前期課程  
平塚裕子



# 目次...

## I. 背景

I -1. なぜ高校家庭科なのか

I -2. 先行研究からみえる課題

I -3. 教員養成の現状

## II. 卒論における調査報告

II -1. 調査結果

II -2. 先行研究との比較結果

## III. 考察

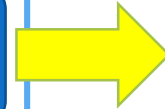
## I -1. なぜ高校家庭科なのか...

### 【高校家庭科とジェンダーの関係性】

- ・国の政策に翻弄され続けている  
家庭科という教科
- ・ジェンダーの再構築の場としての  
高校家庭科

自我の確立, 将来を考える  
気づきと変容の年代

政策



### 【高校家庭科でジェンダー教育を行えるための要素】



## I-2. 先行研究から見える課題...

★先行研究が指摘する「家庭科において『ジェンダー』や『男女平等』を扱う授業が不十分となる要因」(JAUW教育委員会2014)

①教科書\*に「ジェンダー」「国際条約・法律」「働き方・生き方」「社会のあり方・課題」がきっちりと取り上げられていない

②「男女平等」を教えることを教員自身が難しいと感じている



教員自身が学んでこなかったため

③授業時間数の少なさと教える内容の多さ

④生徒の興味・関心との兼ね合い

( \* 2017年改訂以前の教科書 )

## I -3. 教員養成の現状

教員養成 ⇐要素としての「教師の力量等」に及ぼす要因として...

・高校家庭科一種免許状取得経路(注:二種免許(短大)について:中学校家庭科は取れるが高校家庭科はない)

A)教育大学及び教育学部系の教員養成課程家庭科専攻

B) 家庭科教員免許取得可能大学(家政系・生活科学系・生活環境系学部などの一部の学科)

C)通信制大学の家政学部(現在1校のみ)文部科学省HP(2019.6.15閲覧)

★片山ら(2014)の調査(全国の小・中・高家庭科教員へのweb調査)の回答者属性:

**上記のA)以外が  
6割以上**

(右表:片山らの結果より筆者作成→)

| 出身分野              | 名   | %     |
|-------------------|-----|-------|
| 教員養成学部            | 92  | 36.4% |
| 家政学部等             | 40  | 15.8% |
| 被服                | 48  | 19.0% |
| 食物                | 46  | 18.2% |
| それ以外(住居・児童・家庭経営等) | 27  | 10.7% |
| 計                 | 253 | 100%  |

➡これらの取得経路の違いにより、大学での学びは異なっている

- ・「教科に関する科目」;ジェンダー明記科目無し
- ・「教職に関する科目」;「人権教育」も必須とされていない

∴ジェンダーについて学ばなくても家庭科教員になれる

日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会報告(2014)

高校家庭科授業担当者(253名)の内、  
ジェンダーに関しての履修率:教員養成学部出身者以外20%以下  
(教員養成学部出身で35%程度)

👉 ジェンダー教育実施を難しくしている要因の1つ?



An aerial photograph of a beach with turquoise water. A large, swirling sandbar hole is visible in the shallow water, creating a circular pattern of white sand and foam. The water transitions from a deep blue to a lighter turquoise near the shore.

大学の現課程において家庭科教員免許取得を  
志望する大学生は果たしてジェンダーについて  
学べているのか？

知識はジェンダー意識に影響を  
及ぼせているのか？

卒業論文へ...

2018年実施 (N=63)  
質問紙託送調査



# 「大学での学び」の実態について：専攻課程による違い

- ◆ 100%認知度項目：「ジェンダー」「性同一性障害」  
「男女共同参画社会」
- ◆ 50%未満認知度項目：「隠れたカリキュラム」  
「性別特性論」  
「教科書のジェンダー・バイアス」  
「スポーツとジェンダー」  
「教師の男女比」
- ◆ 認知度 私共＞国教＞私女項目：「隠れたカリキュラム」( $p=0.072$ )
- ◆ 認知度 私共＜国教＜私女項目：「男女共修の経緯」( $p=0.064$ )



# 大学分類とジェンダー意識

- 調査18項目全てにおいてで3大学種間では有意差がある程の結果は得られなかったが、特徴的であったもの…
- ①国教…「重い荷物は男性が持つべき」という意識の人は少ないが「育児介護休暇は女性がとった方が良い」と考える割合は高い傾向 …「教員意識?型」\*
- ②私女…「育児介護休暇は女性がとったほうが良い」「妻は夫の姓を名乗るほうが良い」に「思わない」が高い …「女性自立型」\*
- ③私共…「男は仕事、女は家事・育児と役割分担」「女の子は女らしく、男の子は男らしく」「デート等では、男性が金銭的負担をするべき」「男性には一家の大黒柱になってほしい」が高い …「伝統的ジェンダー規範型」\*

## Ⅱ-2. 先行研究との比較結果...

### ①寺町「教員養成課程におけるジェンダーの視点導入の課題」(2012)との比較

表5)「ジェンダーと教育」に関する知識について「知っている」と回答した学生の割合

|                                | 寺町 [教員養成課程<br>全体] (n=1306) | 寺町 [同 2つ以上<br>受講者] (n=97) | 家庭科教員免許<br>取得志望学生<br>(n=63) |
|--------------------------------|----------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 高等学校の家庭科が男女共修になった経緯            | 27.6                       | 48.5                      | <u>88.9</u>                 |
| 教科書の中のジェンダー・バイアス               | 12.0                       | 24.7                      | <u>34.9</u>                 |
| 授業中の教師から生徒への働きかけが生徒の性別により異なる問題 | 26.0                       | 49.5                      | <u>55.6</u>                 |
| スポーツとジェンダーの関係                  | 22.3                       | 47.4                      | 36.5                        |
| 戦前の女子教育                        | 36.9                       | 44.3                      | <u>92.1</u>                 |
| 教師の学校段階や担当教科の男女比               | 20.5                       | 36.1                      | <u>39.7</u>                 |

(数値は%)

注) 寺町の調査は2008年に行われたものであり、2年生以上を対象とし、  
内、844/1306人が「ジェンダー関連科目の受講経験無し」としている。



表6) 高校生と大学生のジェンダー意識 及び 家庭科教員免許取得志望学生の  
ジェンダー意識(本稿調査結果) 「思う」の割合 (数値は有効回答数に対する%)

|                                                                    | 「思う」の割合            |                    |                         |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------------|-------------------------|
|                                                                    | 高校生(女)<br>(n≤4162) | 大学生(女)<br>(n≤2352) | 家庭科教員免許取得志望学生<br>(n=63) |
| ①「男性は仕事、女性は家事・育児」と役割分担する考え方は良い                                     | 25.3               | 24.6               | <u>7.9</u>              |
| ②女の子は女らしく、男の子は男らしくするのが良い<br>(* JAUW設問肢「自分は『〇〇らしく』しなければならない」(傍線は筆者) | (37.2)             | (32.3)             | <u>25.4</u>             |
| ③女性は出産したら仕事をやめて子育てに専念すべき                                           | 26.3               | 23.2               | <b>38.1</b>             |
| ④社会の中で女性は、男性と平等に扱われている                                             | 40.5               | 28.5               | <u>19.0</u>             |
| ⑤働く男性と女性の給料や地位等に差がある                                               | 76.5               | 81.6               | <b>81.0</b>             |
| ⑥家族の栄養バランスを考えるのは女性の役目だ                                             | 52.1               | 46.6               | <b>46.0</b>             |
| ⑦家事(炊事・洗濯・掃除など)は男性より女性の方が得意だ                                       | 51.9               | 47.6               | <u>39.7</u>             |
| ⑧男性でも、女性と同じように子どもの世話ができる                                           | 84.4               | 87.1               | <b>79.4</b>             |
| ⑨自分は結婚してもしなくても、ずっと仕事をしていく                                          | 65.9               | 61.4               | <b>65.1</b>             |
| ⑩自分のことは自分で決めていく方だ                                                  | 78.4               | 77.9               | <u>87.3</u>             |

### Ⅲ. 考察

#### ①全体を通して

- ・家庭科教員免許取得志望学生はほとんど、何らかのジェンダー教育を大学で受けている時代になっていると考えられる
- ・教員養成課程の方がわずかだが知識量が多いがそれぞれ特徴的な違いがある
- ・知識量以上に「授業への関心度合」がジェンダー意識と相関が見られた  
(知識が増えてジェンダーに関心が深まるのか、ジェンダーに関心があるから学ぶのかは明らかではない)
- ・一般学生や他教科の教員免許取得志望学生に比べ家庭科志望学生は知識量もジェンダー意識も総じて高い

#### ②個別項目について

- ・多くのジェンダー意識は払拭されつつあるが、「育児は母親」という規範意識は根強い  
☞ 知識として理解できていても、我が子に関しては「自分の手で」  
(今回の発表には入れなかったが、本人の育ってきた環境の影響の大きさも考えられる)

ご清聴ありがとうございました